

古文書を読む会学習記録

作成日 平成31年1月25日

開催日	平成31年1月24日	時 間	10:00~12:00
場 所	区民活動センターAB会議室	出席人数	17名
講 師	真田 雅行氏	作成者	佐藤 和広
テーマ	第二学習 艱難実録(箱館戦争)(下)⑰		
概 要	<p>明治2年己巳4月(1869年、つちのとみ)</p> <p>備中松山第7代藩主老中首座、板倉勝静(かつきよ)は江戸から函館まで落ち延びたが、官軍の攻勢にいよいよ進退が窮まった。</p> <p>19日・・・少子五稜郭へ行き脱出方法を相談するため泉州榎本武揚に面会し、是迄の次第及び進退窮まり当惑の旨を説明した。他に策無く残るは三本檣の英船でモロランへ逃避するだけとなったが、モロランへ行ったその後の見込みがつかないとの事で、ハアーフルに面談を申し込む。ハアーフル達は幕軍の味方をしてくれ、自分が雇った英国船がありこの船に勝静らを乗船させることも可能である、又仙台から先への予定があるわけではないが、上海迄参ることも検討出来、場合によっては横浜、東京立ち寄りも考えられるとのこと。先ずは戦地からの脱出が先決であり脱出準備をすすめることとした。</p> <p>佐吉宅で坂本と出会い戦争模様を承る。それによると去る14日・・・官軍一手は江刺より松前へ進み、もう一手は閑道より二股へ進來候処、両所とも幕軍大勝利。勢いに乗じ江刺近辺まで追討した。16日は官軍軍艦5艘函館沖へ現れた。翌17日、官軍松前へ押し寄せた。幕軍は江刺へ人数大部分繰り出しており、松前には弐小隊程しか残っておらず、一溜りもなく敗走瓦解、海岸より大砲も発砲され幕軍討ち死多数。幕軍ウシシリ峠に引き揚げ、峠を守るが官軍より朝方攻勢をかけられ、一旦峠を奪われたが幕軍方毎度の敗走に恥じ、その夕奮戦して峠を取り返した。函館沖へも官軍軍艦五艘参り、幕軍艦回天は一艘で沖合で撃ち合う。</p> <p>21日・・・スネルの番頭ハリーが板倉の金子を横浜より預かり、当所へ持ち参り由ハアーフルより聞く。受け取りに行くとハリーは金子を渡してくれない。ハアーフルに頼んでも渡してくれない。承れば五百両預かって其のうち二三百両を使い込んだようだと言ハアーフルより聞く。漸く百両だけ渡してもらおう。此のハリーは実に大山師者だ。</p> <p>22日・・・三本檣船の前に二本檣船が明朝出帆可能なので、そちらは如何との相談があったのでそちらに決めた。だが二本檣船へ乗り込もうとした処、払暁より官軍艦六艘相見え港へ発砲してきたので乗り込み出来なかった。</p> <p>会藩西郷頼母兄弟と函館で出会う。会津では世話になったので、船に乗せてあげたかったがこちらの一存ではどうすることも出来ない。</p> <p>夕刻官軍艦残らずが引きあげるたのでその間を縫って夜七時頃船にやっと乗り込んだ。</p>		
次回予定	平成31年2月14日 10:00~12:00 於:金沢区民活動センターAB会議室 第一学習 野島浦 鈴木家文書⑭		